

地域共生型福祉施設

やすらの里だより

2015年3月 No.2

発行者：やすらの里広報委員会

やすらの里開設2周年にあたって
 特定非営利活動法人丹後福祉応援団 理事長 三井 健史

平成25年3月に開設した「地域共生型福祉施設やすらの里」も早いもので2周年を迎えました。この間、地域のみなさんをはじめ多くの方々から温かいご支援ご協力をいただき大変感謝しております。

思い起こせば5年前の平成22年2月、与謝野町から旧加悦加工場跡地に地域共生型福祉施設を整備する計画についての会議があり、6月には現在やすらの里を構成している4法人による合同検討会の開催、7月には地域共生型福祉施設整備協議会の発足と足早にこの計画が進んでいったことを思い出します。

丹後福祉応援団は「住み慣れた地域、我が家での生活を支えるため」かゆい所にも手が届くような「福祉のコンビニ」を自分たちの手で作ろうと、平成13年に設立した特定非営利活動法人です。やすらの里では在宅介護サービスを集合させた「在宅複合型施設やすらの旋風(かぜ)」で居宅介護支援、訪問介護、通所介護、ショートステイ、サービス付き高齢者向け住宅、移動福祉美容車などの様々な事業を実施していますが、やすらの里に移転するまでの12年間は、ショッピングセンターウイルの駐車場に設置した狭くて小さなトレーラーハウスを事務所として活動してきました。

やすらの里に移転し、三階建ての大きな施設、広い事務所、立派な設備、新しい事業などを得ることができましたが、「小さな事務所だけど地域の

介護サービスをもっともっとと良くしたいなあ」とみんなで夢を語っていた昔を忘れずにこれからも頑張っていきたいと思っています。また、介護・障害・看護分野の4つの事業所が

一か所に集まっているやすらの里にしか無い良さを活かし、今後も地域に貢献できることを皆で考え実践していきたいと思っています。やすらの里だより第2号の発行にあたり、ぜひお目通しいただき、やすらの里の4事業所の事業について、ご理解とご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



◎最近のイベント◎

・コーラスボランティア『やまびこ』(11/10)

綾部市老人連合クラブ・コーラス部『やまびこ』(山口光子さん他31名の皆さん)によるコーラスを聴かせて頂きました。「リンゴの唄」に始まり「月の砂漠」「荒城の月」など計7曲。その後は山口光子さんによるソロ歌唱で、「里の秋」やオペラ「カルメン」より「ハバナラ」をフランス語で披露して頂きました。



・コーラスボランティア『セシリア会』(12/12)

加悦カトリック教会のコーラスグループ『セシリア会』の皆さんに、「小さな小さな音楽会」と題したミニコンサートを開いて頂きました。12月という事で「ハレルヤ・クリスマス」「もろびとこぞりて」とクリスマスにちなんだ歌を披露して頂き、クリスマスムードが高まりました。



・やすらの里 餅つき大会(12/27)

今回で2回目となる『やすらの里・餅つき大会』を、やすらの里・地域交流室で開催しました。今回は4月から新・与謝野町長として就任されている山添町長をお招きし、餅つきをして頂きました。ついたお餅は、ご利用者の皆さんに餅花や丸餅にして頂き、ぜんざいやおろし餅にして振舞われました。



やすら苑

〈ぜんざいを振る舞わせていただきました〉

元旦に地域交流室にて、面会に来られたご家族様に召し上がっていただこうと、ぜんざいとお茶、お茶菓子を振る舞わせていただきました。ご入居者様とご家族様が一緒にゆつくりとお正月を楽しんでいただきたいという思いで、ささやかではありますが実施いたしましたところ、多くの皆様にお越しいただき、おかげさまでとても賑わいました。

いつもはユニットにいらっしやるご入居者様もたくさん地域交流室にお越しいただき、ご家族様とくつろいでおられる様子はなかなか普段ではお見かけできないもので、こちらもとても心温まる思いがいたしました。

〈お誕生会を行いました〉

ちりめん通り一番地では、12月21日に100歳のお誕生日を迎えられた中西ふみ様のお誕生日のお祝いを盛大に行いました。当日はご家族様もお見えになり、にぎやかなひとときを過ごしていただきました。

職員手づくりのくす玉を割っていただいた後、これまた手づくりのケーキをみなさんで召し上がっていただき、最後は職員が「子どもたちに大人気の『ようかい体操』」を披露させていただきました。

これからもお元気で素敵な笑顔を見せてください。また2月に100歳を迎えられるご入居者様がおられ、ちりめん通りはお祝いムード一色です。

HAPPY BIRTHDAY



やすらの旋風かせ

●生活リハビリ道場



昨年の12月23日に、リハビリ道場恒例の餅つき大会をおこないました。今でこそ餅つきをする家が少なくなりましたが、昔は年末の餅つきと言えば一大行事で、家族総出での餅つきは冬の風物詩とも言えるものでした。道場のご利用者も、ほとんどの方が餅つきの経験があたりだと思えます。つき手と返し手の息の合った動きは見ていると気持ちが良いですし、「所作(しよさく)」というものは体が覚えているものです。

今回は都合によりご利用者についていただく事は出来ませんでした。前回の餅つきでは迫力ある勇姿をみせていただきました。かつては家長として、また台所を仕切っておられた腕に覚えのあるご利用者が、真っ白になって餅を丸めて下さいました。運動障害のある方でも上手にもちを丸められ、まさに『昔とった杵柄(きねづか)』と言える腕前を見せて頂きました。生活リハビリ道場では、「時節の行事」や「昔のお仕事」を取り入れて体を動かしていただくことを大切にしていますが、私たちの知らなかった、皆さまの得意技、に驚かされる事がよくあります。今年も色々な行事の中で、皆さまの新たな一面を見せていただけたらと楽しみにしております。

ついたお餅はぜんざいに入れてご利用者の皆さまと一緒に美味しくいただき、皆さまも「つきたては美味しいなあ」と満足そうに話しておられました。

●ショートステイやすらいろ

ショートステイやすらいろでは、毎月、掲示板に飾り付けをしています。その月の担当職員がその季節に合った内容を考え、ご利用者と一緒に作品を作ります。

2月は「節分」です。はり絵のオニと色がみを丸めて豆を作りました。出来上がった作品をながめ、皆さんの笑顔がこぼれました。



ワークセンター花音

『ここで働いて2年目の春 それぞれの希望あふれるお正月』

地域の皆さまに支えられて、ワークセンター花音も開設して2年目のお正月を迎えることができました。新しく働く仲間が増え、ワークセンター花音は、16名が「やすらの里」全体を掃除する清掃班、高齢者厨房の下ごしらえをする厨房班、そして喫茶と配食サービスをする喫茶班に分かれて、障がいに合わせて仕事をしています。

その利用者と去る1月8日に、十日えびすの準備忙しい文殊堂へ初詣に行ってきました。『今年も元気で働けますように』『給料をたくさんもらえますように』。それぞれの新しい年に託す希望を文殊堂へ祈願してきました。

《利用者の声》

『今年も声かけて仕事をしたい』

そう語るのは清掃班の坂根さん。現在、花音の自治会長で、雨の日も雪の日もバイクで通勤されています。坂根さんは今年で64歳になられ、仕事に体がついて行くかどうかを心配されています。

「やすらの里を掃除して回っている時に皆さんに声かけをしていきたい。僕はしゃべりが苦手なので声を出していきたくいです。また今年一年健康で、意思疎通がはかれるような仕事をしたいです」とお顔を赤らめて話して下さいました。

『ここで経験を積んで一人暮らしがしたい』

そう熱く語るの、今年23歳になるフレッシュな奥田さんです。奥田さんは現在、高齢者施設の給食の下ごしらえ班で働いています。

奥田さんは2013年11月に花音に働きに来られ、2月で1年と4ヶ月になります。それまではいくつかの職場で働いていました。「なぜここが良いのですか?」と尋ねると「話しやすい人が多く、色々な人と会話も出来て毎日楽しいです」と答えてくれました。また「調理は初めての経験です。各ユニットに振り分ける作業や計量して真空パックするなど、やりがいのある仕事をしています」と誇らしげに話してくれました。

文殊堂では「ここで働き続けて経験を積んで、将来を考えていきたいです」と祈願したそうです。

『欲しいものがたくさんあるので、給料がたくさん欲しいです』

「花音の利用者の給食を作ってみたい」。こう話してくれたのは 喫茶花音で働く小川さん(33歳)です。支援学校を卒業して宮津の作業所で働いていました。今は宮津のグループホームで生活し、宮津から汽車で野田川駅まで来て、その後は送迎車で花音まで通勤しています。そんな小川さんの今年の夢は、「たくさんありますが、いろいろな料理が覚えられる様になりたい」ということです。また「喫茶花音に来られる小さい子供さんやお年寄りと一緒に接することが出来て、毎日の仕事がとても楽しいです」とも話してくれました。以前は夏場の体調が優れずに作業所を休みがちだったようですが、現在は休むことなく喫茶での仕事を笑顔いっぱい頑張っています。



ユニット調理の舞台裏

やすらの里の食事は3法人が協力し合って、利用者様に美味しい食事をお届けしています。献立作成はやすら苑、食材発注・下ごしらえは花音厨房、そして最後の調理はやすら苑、やすらの旋風が行い食事提供しています。

食材の下ごしらえをされている花音厨房では、障害を持った利用者や職員でやすら苑の厨房を使用し、食材の下ごしらえの仕事をしています。利用者も初めは野菜を切るのに時間がかかっていましたが、今では早く上手に切れるようになり、食材振り分け作業や洗い物なども頑張っています。各事業所に食材を運んでいます。利用者が大きな声で「こんにちはお会いします」と言うと、他事業所の方々からも「ありがと」と言ってもらい、利用者も大変嬉しそう、良い交流が出来つつあると実感しています。

やすら苑、やすらの旋風ではご利用者の前で調理を行うユニット調理を行っております。調理の音や料理の匂いを感じて頂いて家庭的な食事の提供を目指しています。やすら苑ではご利用者に野菜の皮むきや料理の盛り付けを手伝って頂いたり、味付けをチェックして頂いたりして楽しく調理を行っています。リハビリ道場では、生活リハビリの一環としてバイクング方式での食事提供を行っています。やすら苑のシヨートステイでは利用者様のご自宅での食生活の援助が出来る事を目指し、個々に合った食形態、食器、療養食の相談など利用者様が安心して楽しく食事ができるよう力を合わせて頑張っています。サービスタク高年齢者向け住宅やすらの詩では安心して生活をして頂けることを目的として、一日3食の食事を提供しています。花音で下ごしらえされた食材が、各事業所のご利用者に合わせた食事提供であり、食を通して生活の楽しみを味わいながらご利用者に届いていきます。

3法人で一つの食事にたどり着くのは簡単な道ではなく、お互いの想いがずれ違っても度々ありましたが、月に1度、3法人の色々な想いや問題点を話し合いながら2年を迎えました。これからも3法人協力しながら美味しく、利用者様に喜んでいただく食事を目指していきたいと思っています。



サテライトみのり

今回は、訪問看護活動の一環として、ハンドベルを行ったので紹介したいと思います。

天の橋立訪問看護ステーションでは数年前から、外出のできないご利用者へハンドベルの演奏を行っております。それにならってサテライトみのりにおいても、『音を奏でて、利用者さまやご家族の方に癒しと安らぎと・・・笑いをお届けできたら』と思い、少ないメンバーではありますができる範囲で行いました。

今回は、聴いてくださるご利用者が誕生日を迎えておられたので「誕生日のテーマ」を、また12月という事で「もろびとごぞりて」「シングルベル」「聖夜」をメドレーにし、そして誰もがなじみのある「ふるさと」の3曲を演奏させていただきました。

しかし、練習時間はお昼休みの数分間であったり、4人という人数で旋律から和音の響きを奏でるには手が足りず、『足を使うか?』など頭によぎることもありましたが、手が止まることなく音を奏でる事ができました。そして何より感動したのは、この日において利用者さまもハンドベルを練習して参加してくださったということです。また、なじみの曲でもありご利用者が一緒に歌ってくださり、楽しい時間を過ごす事ができ嬉しく思いました。

音楽で心と心を通わせることは、言葉とはまた違うコミュニケーションが生れるのだと改めて感じました。

これからもレパトリーを増やして多くのご利用者、ご家族の方々へお届けできたらと思っております。また何かの機会にお披露目できる日がくるかもしれません・・・ね。



地域共生型福祉施設 やすらの里

〒629-2403 京都府与謝郡与謝野町字加悦 802 番地 7

社会福祉法人与謝郡福祉会 特別養護老人ホームやすら苑
 施設長 土居正志
 ☎ 0772-43-2500 Fax0772-43-2501

特定非営利活動法人丹後福祉応援団 在宅複合型施設やすらの旋風
 理事長 三井健史
 ☎ 0772-44-1122 Fax 0772-44-1155

社会福祉法人よさのうみ福祉会 ワークセンター花音
 管理者 平井弘美
 ☎ 0772-44-0022 Fax 0772-44-2022

京都府看護協会天の橋立訪問看護ステーション サテライトみのり
 管理者 三宅佳代子
 ☎ 0772-43-0225 Fax 0772-42-0226



編集後記

やすらの里便り第2号、いかがでしたでしょうか。4法人で協力し合いながらひとつのものをつくりあげるといことは大変なことではありますが、同時に楽しくもあり出来上がったときの充実感もひとしおです。次号もみんなで協力し合いながら、やすらの里の様子をお届けしたいと思います。どうぞよろしく願います。

広報委員 M・S